

平成23年度 (第65回)

芭蕉祭



俳聖松尾芭蕉の業績を称え遺徳を偲ぶ「平成23年度(第65回)芭蕉祭」が、10月12日、上野公園を中心に行われました。

芭蕉翁銅像、文学碑への献花、献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに式典が行われました。式典は「芭蕉祭りとも合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者への表彰などが行われました。

今年の献詠俳句は、全国各地および世界各国から一般の部に9978句、テーマの部に1914句、児童生徒の部に2万7731句、英語俳句の部に21カ国から488句、連句に167巻の応募がありました。各部門の特選句と一般の部で入選された市内の人の句を紹介します。

【問い合わせ】企画課

TEL 22・9621
FAX 22・9628

一般の部 特選

▼有馬朗人 選

あかあかと茂吉の郷の紅の花
晩節や白を極めし日記買ふ

寒河江市 鈴木俊六
室蘭市 鈴木京子

▼稲畑汀子 選

被災地の花は季節を忘れざる
勲章といふには多き草虱

仙台市 小島左京
西尾市 蓮沼たけし

▼茨木和生 選

申し子を抱き茅の輪をくぐりけり
病む人の側にゐたくてレース編む

樺原市 鈴木玲子
大阪市 岡 明子

▼宇多喜代子 選

百貫の碇の下に地虫鳴く
向き変へて黒潮に乗る鯉船

津市 上杉津夜
志摩市 手塚泰子

▼岡崎光魚 選

夜は打たぬ鍛冶の土間や守宮鳴く
秋風や太棹に干す藍の纒

岡崎市 岡田游子
三重県 田端繁雄

▼小澤 實 選

田植済む千四枚の千枚田
胴長の犬や茂みへまつしぐら

越谷市 結城あき
真岡市 生井敏夫

▼鍵和田袖子 選

玫瑰や人遠くして化身とも
鎮魂やそよるそよると青田波

町田市 小田中柑子
府中市 並木照子

▼金子兜太 選

山葵田や水行くように遠出して
山笑ふ言葉忘れて妻生きる

練馬区 篠 喜美子
能代市 佐藤健一

▼倉田紘文 選

車井戸備へ奥津城涼しけれ
風死すや命日同じ千の墓

大韓民国 本郷民男
西尾市 齋藤朗笛

▼塩田穀柑子 選

遠き子の暮らしを思い梅漬ける
再稼働問う原発の海炎ゆる

伊賀市 谷出里和
相生市 宮崎相月

▼棚山波朗 選

一筋の蜘蛛の囲光る不破の関
内の輪を抜けて外の輪盆踊

尾張旭市 豊田紀久子
調布市 浅野文男

▼西村和子 選

舟過ぎて浮巢の揺れのただならず
月山の風がもてなす夏座敷

神戸市 前田星子
柏市 宮本次雄

▼長谷川 權 選

輪の中へ子供押しやる踊かな
掛け声の干戈となりて初稽古

草津市 井上次雄
室蘭市 渡辺清乃

▼星野 椿 選

人生はみな浮き沈み走馬灯
木漏れ日の三日月の句碑虚子忌晴

練馬区 菊池恭三
ブラジル 青木駿浪

▼正木ゆう子 選

大夏野よるこぶ牛の声もして
鉄の柄に汗流れゆく畑仕事

筑紫野市 平木場公子
伊賀市 西出喜子

▼三村純也 選

紙漉の水にまだある夕明り
伊賀しぐれ軒借るほじもなかりけり

伊賀市 森井章恵
川西市 西山洋美

▼宮田正和 選

新盆の座敷朝まで点りをり
一寸の草を掴めり南瓜蔓

伊賀市 富山文夫
伊賀市 外山依子

テーマの部 特選

▼片山由美子 選

月光に眞珠笈の濡れあたり
月鉾の月揺れて鉾動き出す

志摩市 西尾敬一
天理市 能登つくも

児童・生徒の部 特選

【幼稚園・保育園・小学校一〜三年】
 ▼北村 保 北村みち 佐々木絳子
 せみのあかちゃんしろいからだですろいほね 曙保育園 松本 悠
 さかだちのあせがさかさにおちるんだ 府中保育園 宮本旺資
 くちひらくティラノサウルスなつのくも 府中保育園 松山航輝
 おおぞらへつばめのこどもいちににさん 依那古小一年 やすながれい
 あさがおのつるをのぼしてえこかあてん 上野東小一年 うらかみりよう
 へいのうえのんびりさんばかたつむり 栢植小一年 きたじまほたか

【小学校四〜六年】

▼下村哲朗 谷本阜子 濱地和恵 藤井充子
 地ぞうぼん父から教わるはやし歌 中瀬小四年 葛原大聖
 まんげきよのぞいたようなおお花火 友生小四年 内田直美
 きたろうのふる里たぎねた夏休み 上野東小四年 山口琴木
 汗ばむ手丸台で組むキーホルダー 上野東小五年 釜井 彩
 むしばしていっぱいならんだおにの面 上野西小五年 山本祐暉
 鬼やんま火の見やぐらの高さ飛ぶ 西栢植小五年 城 陽介
 去年より小さく見える浮きぶくら 上野西小六年 石橋知佐紀
 雨がふり稲がこけると悩む祖父 府中小六年 上杉榮大
 わたあめの大ききさきさき地ぞう盆 上野東小六年 佐藤垂矢

【中学校・高等学校】

▼喜多富美 永井みよ 東構東子 福山良子 横田緑市 共選 (五十音順)
 サッカーのえんせいで見る遠火花 崇広中一年 谷岡寛起
 夏の島自転車で聴く波の音 阿山中一年 宮田真琴
 かげろうの向こうめがけてシユート打つ 崇広中一年 吉村明可
 ゆかた着た人でにぎわう河川敷 直方市直方第三中二年 米満将也
 はやぶさが無事帰還した初夏の朝 津市高田中二年 石川涼香
 塩あめをなめて乗りきる夏合宿 崇広中二年 猪岡稔基
 鉄柵の国境を越え南風 奈良県山添中三年 パイク想尼雅
 秋近し潮の香りの更衣室 大田中三年 東 裕二
 祖父の影東にのびた茄子畑 城東中三年 中出真優
 油照りハードル走の黒い脚 長崎市諫早農業高一年 森 紘太郎
 波乗りの大波沖に入道雲 長崎市諫早農業高三年 林 竜太郎

西村八洲子 松本ちい 共選 (五十音順)
 じぞうぼんおじぞうさんとあまやどり 中瀬小二年 くず原あやの
 あきさめにかさをかぶったぼしょうさん 依那古小二年 つぶらいもとき
 ザリガニがだつびしてつゆあける 友生小二年 久保智昭
 つばめのすつきはずめがつかつてる 名張市蔵持小三年 森田遥香
 ひさいちにとどけたいなあひまわりを 依那古小三年 政谷厚公
 船虫のざわざわという島めぐり 中瀬小三年 永井 光



連句の部 特選

▼臼杵游児 大野鶴士 品川鈴子 西田青沙 共選 (五十音順)
 ※半歌仙「ひとつ葉」の巻 山県市 大山功 捌
 夏来てもただひとつ葉の一葉哉 芭蕉翁
 枝の先より老鴛の声 奥山ゆい
 自叙伝の序文さらりと書き上げて 各務恵紅
 通ひの店に薫る珈琲 大坪一才恵
 月光に浮く大理石白々と 堀部比呂美
 後れ蚊ふはり見えつ隠れつ 大山功
 悪友は終の友だち糺祭忌 恵紅
 二合と決めず今日の晩酌 ゆい
 エプロンの捨て置かれたる部屋の隅 ゆい
 蜜月映す鏡曇れる 恵紅
 食扶持も稼げず筆を折りもせず 功
 師走の市をそぞろ歩きぬ 比呂美
 信楽の狸見上ぐる凍て玉兔 恵紅
 湖渡る風のきびしく ゆい
 八百万の神を苦屋に招き入れ 比呂美
 瘦せたる膝にねむる初孫 恵紅
 花満ちてゆるりとしたる時の中 ゆい
 旅を始めむ蒲公英の絮 功
 平成23年7月24日 満尾 岐阜 日本海庄や

英語俳句の部 特選

winter solstice
the houselight left on
for our return
(帰り来る者へ冬至の灯を残す)
Bruce Ross (ブルース ロス) アメリカ合衆国

A white swan flying
the sacred arrow sliding
in my white body
(白鳥の壺き矢となり吾を清む)
Clelia Ifrim (クレリア イフリム) ルーマニア



一般の部 入選

- ▼稲畑汀子 選

梅雨明けて空の隅々まで軽し
青柿に庭の光陰はじまりし
語らひは安らぎなりし涼み台
さらさらと草の音する菊日和
月見草村に終バス着きにけり
起きしより汗の一日始まりし

上野丸之内 山畑 北村みち
治田 藤井充子
千歳 西田扇女
佐那具町 森喜美代子
小田町 西澤与志子
中野郁子
- ▼茨木和生 選

釣り上げてぬらりとあをき鯨かな

桐ヶ丘 坂石佳音
- ▼宇多喜代子 選

田植機に積まれしままに余り苗
いちはずの水より出づる花の丈

柏野 和田柏忠
桐ヶ丘 坂石佳音
- ▼岡崎光魚 選

螢狩猪に出会す道を来て
青伊賀の眞つ只中の頓宮趾
粽結ふ最後の綴ちは角結び
国分寺趾なる土墨より蟬生る

島ヶ原 島井 節
四十九町 出口たみ
緑ヶ丘本町 和田美代子
緑ヶ丘南町 谷本まさ子
- ▼小澤 實 選

夏霧の畑や水筒杭に掛け
秋の虹かかる大間は波あらし

西山 奥谷かち子
森寺 喜多佳子
- ▼鍵和田柚子 選

いなつるび伊賀の盆地を走りゆく
蠍草服部半蔵駈けたる野
校庭に諸焼く父母や文化祭

緑ヶ丘本町 中森文子
森寺 喜多祐子
柘植町 浜地和恵
- ▼金子兜太 選

謹慎の生徒凛々しく青葉潮
梅咲いて地のほこほことほかほかと

上野桑町 福沢義男
平田 福山良子
- ▼倉田紘文 選

干蝟のライندگانスの揃はざる

緑ヶ丘本町 大野利江
- ▼塩田数柑子 選

伝統の技守り継ぐ祭り衆
夏木立世界遺産の堂光る
農政の歪みに挑む汗の貌

馬場 山本松柏
朝日ヶ丘町 中尾あや
阿山ハイッ 山森桂花
- ▼棚山波朗 選

滝不動苔の衣を着て在す
夏草の伸び放題や人は亡く
神将に絶やさぬ燭や蟬時雨

緑ヶ丘東町 湯矢澄子
上野丸之内 池住律子
上野中町 下村哲朗
- ▼西村和子 選

翁寺に白蓮ひらく音澄めり
溝川に鍬浸しある穀雨晴れ
一人言増えたる母や鯛雲
川風の生れて螢を見失ふ
黒揚羽はじきて伊賀の風荒し
夜気迫る城の石垣ほたる飛ぶ
目つむれば雨の高野の青葉木菟

平田 福山良子
柘植町 服部登紀子
山畑 米野てるみ
山畑 山下久美
柘植町 澤井とき子
上野西大手町 前出公子
上野桑町 石原京子
- ▼長谷川 權 選

冬耕す一度は捨てた畑なれど
新聞紙一枚敷きて花庭
帯留の紫水晶立子の忌
登り来て山湖に映る雲の峰
新涼の畑仕事も吾が余生
朝茶事の床に活ける牽牛花
万緑を大きく背負ひ札所寺
四万十の雨もまたよし濃紫陽花

上野丸之内 藤井充子
小田町 山本昇子
出後 橋本良子
上野丸之内 奥中和子
桐ヶ丘 内田育子
- ▼正木ゆう子 選

茅舎忌の風一縷なき窓に凭る
青椋○置かれたやうに空に照る

上野茅町 原 禮子
朝屋 神尾早智子
- ▼三村純也 選

新任を待つ教卓のスイートピー
稲の花風に白さを増しにけり
畑仕事するにも老いのサングラス
少年の草笛畦を曲り来る

佐那具町 西澤与志子
上野丸之内 藤井充子
高畑 榎並喜代
印代 森中幸枝
- ▼宮田正和 選

押花にかすかな匂ひ居待月
蟾螂のあえかの髭をもて生る
土砂降りの雨に飛びたつ親燕
二六時を点滴落ちる雲の峰
ひぐらしが蝟を呼ぶ宮の跡
新婚の夫婦目高を買つて来し
神苑に日雀降る音昼深し
残業の机の上の水の中花
紫蘇を揉む母の高さへ椅子おきぬ

山出 菊山時子
桐ヶ丘 坂石佳音
上阿波 東出了子
川西 岸 幸雄
柘植町 岡島千秋
柘植町 松尾紀子
朝屋 神尾早智子
柘植町 桑原智代美
山畑 谷口千代